

基本構想に対する委員意見一覧

<H26.10.9 第2回第2部会>

No.	分野	委員によるご意見
1	I 総合計画の策定にあたって 3. 計画の基本的な考え方	(榮野委員) 少子高齢化が進む中で、行政改革の必要性の部分が薄れているように感じる。今後の人口構成を考えると学校の統廃合などの課題も出てくる。行政改革が総合計画の目標になると本末転倒になる気もするが、背景としてそういう課題があるということ。「計画の基本的な考え方」のところに記載すれば全体としてのバランスが取れるのではないかと。
2	II 基本構想（素案） 1. 基本構想の実現に向けて 4. 行政運営の進め方	(高井委員) NPOという言葉は、市民団体やボランティア団体などを含むという考え方があり、言葉のイメージがまだ定着していないところがある。NPO法人との使い分けなども必要ではないかと。
3	II 基本構想（素案） 1. 基本構想の実現に向けて	(角野委員) 「基本構想の実現主体」について、市民・地域コミュニティを中心にして、行政、事業者、NPOなどが関わり合いながら、まちをつくっていくというイメージがある。また、広く言えば全て市民に入り、各主体がそれぞれの機能を提供するということだと思う。
4	II 基本構想（素案） 1. 基本構想の実現に向けて	(吉川部会長) 総合計画の基本構想の段階なので、実現主体の表現などを含め、あまり細かく定義づけせず、広く表現することでもよいのではないかと。
5	II 基本構想（素案） 2. めざすまちの姿 3. まちづくりの基本目標	(吉川部会長) 「めざすまちの姿」と「5つの基本目標」の両方に「安全で」という文言が入っており、重複している。また、「めざすまちの姿」の「あらゆる人にやさしい」という言葉はユニバーサルデザインの考え方を指すものだと思うが、この中に「安全」という意味も含まれていると思う。
6	II 基本構想（素案） 2. めざすまちの姿	(榮野委員) 「大阪に住むんやったら、ひらかた」とあるが、他市から人をとってくるのが枚方の目標というのは違和感がある。また、「大阪で」という表現も、大阪の中で競い合っているという感じがしないと感じる。
7	II 基本構想（素案） 2. めざすまちの姿	(後閑副部会長) 「めざすまちの姿」は、読んだ人が「こういうところだったら良い」とイメージできる表現であればよいと思う。
8	II 基本構想（素案） 2. めざすまちの姿	(谷本委員) 「住むんやったら」と、大阪弁になっているところは柔らかい表現で好感が持てるが、「大阪で」は不要と考える。「安全で」というのもなくていいのではないかと。また、1つ目を漢字で「枚方」として、2つ目を平仮名で「ひらかた」として、「まいかた」と読まれにくい工夫してもよいと思う。
9	II 基本構想（素案） 2. めざすまちの姿	(角野委員) 「めざすまちの姿」で、どう「やさしいまち」なのか、その「やさしさ」の具体的な中身を副題に入れてはどうか。今のままでは、メッセージ性がないように思う。

No.	分野	委員によるご意見
10	Ⅱ基本構想(素案) 3.まちづくりの基本目標	(後閑副部長) 基本目標について、都市ブランドの言葉の中に入れていくのも良いと思う。 また、基本目標の文末の表現を「まちづくり」としているが、目標の設定としては「安全で、利便性の高いまち」などの表現の方がふさわしいと思う。
11	Ⅱ基本構想(素案) 3.まちづくりの基本目標(■子どもが 光り輝き、文化が薫 るまちづくり)	(伊東委員) 基本目標「子どもが光り輝き、文化が薫るまちづくり」について、「子ども」に 焦点を当てるのはいいが、光り輝くのは「子ども」に限らず、「文化」も世代に関 係がないものなので、「子どもをはじめ誰もが光り輝く」など、幅広い世代を捉え る表現にすることなどでまとまりが良くなるのではないかと。
12	Ⅱ基本構想(素案) 3.まちづくりの基本目標(■子どもが 光り輝き、文化が薫 るまちづくり)	(角野委員) 基本目標「子どもが光り輝き、文化が薫るまちづくり」について、「文化が薫 る」は少しイメージから離れる気がするので、修正前の「文化を育む」という表現 の方がよいのではないかと。また、学校教育、生涯教育、文化財、これが基本的に市 民文化になると思う。
13	Ⅱ基本構想(素案) 3.まちづくりの基本目標(■子どもが 光り輝き、文化が薫 るまちづくり)	(富岡委員) 基本目標「子どもが光り輝き、文化が薫るまちづくり」について、例えば、枚方 市が子育て世帯に流入してほしいと考えるのであれば、ターゲットを絞った目標設 定をしてもよいと考える。ただし、この後の基本計画の展開との関連性もあるので 抽象的な表現にした方が適しているという考え方もある。
14	Ⅱ基本構想(素案) 3.まちづくりの基本目標(■子どもが 光り輝き、文化が薫 るまちづくり)	(伊東委員) 基本目標「子どもが光り輝き、文化が薫るまちづくり」について、基本目標を5 つとするならば、まとまっている感じはするが、6つにできるのであれば、子ども の分野と教育文化の分野を分けてもよいのではないかと。 また、「子ども」について取り上げることもいいが、今後増加する高齢者をター ゲットとする記述が少ないと思う。
15	Ⅱ基本構想(素案) 3.まちづくりの基本目標(■子どもが 光り輝き、文化が薫 るまちづくり)	(榮野委員) 特定の世代をターゲットにせず、全世代に通じた基本目標にしてもいいと思う が、子どもに対する施策を売りにして都市間競争をするということであれば、基本 目標を1つ増やして、「子ども」に焦点を当てた目標を設定してもいいと思う。
16	Ⅱ基本構想(素案) 3.まちづくりの基本目標(■健やか に、生きがいを持って暮 らせるまちづくり、■子どもが 光り輝き、文化が薫る まちづくり)	(谷本委員) 基本目標「健やかに、生きがいを持って暮らせるまちづくり」にある「生きが い」という言葉には幅広い世代が含まれるイメージがあり、文化やスポーツなども 想起させるように思うので、例えば、子どもとか高齢者、文化・スポーツを含め て、「生きがい」というような表現でまとめ、「健やか」など健康医療に関わる目 標を別に設定するとまとまるように思う。
17	Ⅱ基本構想(素案) 3.まちづくりの基本目標(■子どもが 光り輝き、文化が薫 るまちづくり)	(富岡委員) 各基本目標において、各世代の人たちが、枚方市でこんな暮らしができるとい ったイメージができる組み立て方、例えば、「健康」や「教育」の分野ごとに、各世 代に対する項目を挙げるといった表現の仕方もあるのではないかと。
18	Ⅱ基本構想(素案) 3.まちづくりの基本目標(■子どもが 光り輝き、文化が薫 るまちづくり)	(後閑副部長) 基本目標「子どもが光り輝き、文化が薫るまちづくり」については、教育や文化 により、生涯、学ぶことのできる環境があるというイメージがわくような表現にな ればよいと思う。どうすれば光り輝くのかという要素が入ってくればわかりやす い。

No.	分野	委員によるご意見
19	Ⅱ基本構想(素案) 3. まちづくりの基本目標(■子どもが 光り輝き、文化が薫 るまちづくり)	(吉川部会長) 「子どもが光り輝き、文化が薫るまちづくり」など基本目標については、各世代をまたぐように工夫し、エイジレスな表現となるように整理すべきである。
20	Ⅱ基本構想(素案) 3. まちづくりの基本目標(■人々が集 い、活力があふれる まちづくり)	(谷本委員) 前は、基本目標「賑わいや活気」のところで枚方市駅前についての記述があったが、今回はその箇所が「中心市街地」という言葉に置き換わっている。枚方市駅は枚方市の「顔」と言える場所であるので、「枚方市駅前をはじめとする中心市街地」などの表現にしてはどうか。
21	Ⅱ基本構想(素案) 3. まちづくりの基本目標(■人々が集 い、活力があふれる まちづくり)	(吉川部会長) 総合計画は市の最上位計画であり、あまり特定の地域を取り上げると、分野別のプランが縛られる可能性がある。また、総合計画は長期に渡る計画でもあり、仮に特定の場所を入れたとしても、ターゲットが変わる可能性もあるので、基本構想からブレイクダウンしたときには出てきてもよいと思うが、現時点では具体的な場所とか施策レベルの記述は盛り込まなくてもいいと思う。
22	Ⅱ基本構想(素案) 3. まちづくりの基本目標(■人々が集 い、活力があふれる まちづくり)	(谷本委員) 基本目標「人々が集い、活力があふれるまちづくり」については、産業や雇用の観点を「活力」という言葉に含めており、イメージできるのでこれでよいと思う。
23	Ⅱ基本構想(素案) 4. 行政運営の進め 方	(富岡委員) 市民によるまちづくりの意識は欧米に比べ日本ではまだまだ低く、子どもの頃からの教育との連動が重要である。また、そういう仕組みづくりのために大学などの機関と連携していくことも必要だと思う。例えば、枚方メソッドみたいな形で、教育と連動した枚方独自の仕組みをつくり、まちづくりに対する市民の意識、まちの愛着を醸成していくことが必要ではないか。
24	素案全般	(富岡委員) 「枚方市転入・転出に関するアンケート」の結果では、利便性や仕事の都合などを転居理由とする回答が多くなっているが、利便性などだけでなく、まちのイメージや愛着によって選ばれるようになればと思う。
25	素案全般	(後閑副部会長) 「枚方市転入・転出に関するアンケート」の結果や枚方市の社会移動の状況を踏まえると、子育て世代の流入を促し、定住につながるようになればと思う。
26	素案全般	(伊東委員) 「枚方市転入・転出に関するアンケート」の結果では、転居の理由は仕事などの都合が多い。ただ、市外の人枚方に住んだときに、期待を裏切らないような方向性であってほしい。そうすれば、枚方に転入してきた人が枚方の良さを外に向けて発信していくようになると思う。
27	素案全般	(角野委員) 市民のまちづくりへの参画にあたっては、今後、高齢者の経験・能力をどのように活用していくかが重要となってくる。
28	素案全般	(伊東委員) 例えば、住民税が安いとか還付されるなど、住んでよかったと思えるようなメリットがあればよいと思う。

No.	分野	委員によるご意見
29	素案全般	(伊東委員) 枚方市は、八幡市とか交野市などから、住んでなくても通ってもらえるなど、北河内地域で頼られるまちになればと思う。
30	素案全般	(吉川部会長) 総合計画の中で、もう少し中核市であるということが見えてくる記述があってもよいと感じる。移行時期が総合計画の策定期と近いということもあるが、うまく総合計画と連携できればと思う。
31	素案全般	(富岡委員) 中核市に移行したメリットとして、府からの権限移譲はあくまで行政目線の発想で、市民としてのメリットはきめ細かいサービスが受けられるようになったことなので、「暮らしやすさ」という視点で具体的に表現することができればよいと思う。
32	素案全般	(谷本委員) 中核市移行については、中核市になったことではなく、中核市への移行を目指した理由があると思うので、総合計画にはそういう部分を示せばよいのではないかと。
33	素案全般	(伊東委員) 日本全体として少子化が進んでいるが、不妊治療を受けている人も多く、産みたくないう人が増えているわけではないと思う。枚方市が積極的に「子どもを増やしていこう」という姿勢が計画に組み込めたら、他市との違いが出てくるのではないかと。枚方市が子どもの数を増やしていくことができれば、それが枚方市としての特長になるのではないかと。
34	素案全般	(富岡委員) 子育てのときには手が足りないため、地域の高齢者などが子育てを支えるなど、安心して産み育てられ、1世帯当たりの子どもの数が増えていくような環境をつくっていくことをビジョンとすればよいと思う。

<H26.10.17 第2回第1部会>

No.	分野	委員によるご意見
35	Ⅱ 基本構想（素案） 1. 基本構想の実現に向けて	<p>（三輪敦子委員） 「基本構想の実現主体」の図で「行政」が一番右に位置している。これは、「市民・市民団体など」や「事業者」に積極的にまちづくりに関わってもらいたいという行政の姿勢の表れかもしれないが、総合計画は行政の計画ということを前面に示すことも必要ではないか。</p>
36	Ⅱ 基本構想（素案） 1. 基本構想の実現に向けて	<p>（加藤副部長） 「基本構想の実現主体」について、「行政」はまちづくりの方向性を示し、「市民・市民団体など」と「事業者」を後方支援していくのであれば、三者が並列になっているのは違和感がある。どちらかと言えば、「行政」は「市民・市民団体など」と「事業者」を下から支えるイメージだと思う。</p>
37	Ⅱ 基本構想（素案） 2. めざすまちの姿	<p>（徳久委員） 「めざすまちの姿」は、市民に理解してもらうのであれば、一言で言えた方がよいと思う。「安全で」を削除して「あらゆる人にやさしいまち ひらかた」とする方がよいのではないか。 また、「ひらかた」を平仮名表記にすることについては、地名には歴史がありアイデンティティを示すものであることを踏まえ、1つ目を漢字で「枚方」とし、2つ目を平仮名で「ひらかた」としてもよいのではないか。</p>
38	Ⅱ 基本構想（素案） 2. めざすまちの姿	<p>（三輪信哉委員） 「あらゆる人にやさしいまち」とあるが、誰が誰にやさしくするのか主語が不明確な気がする。</p>
39	Ⅱ 基本構想（素案） 2. めざすまちの姿	<p>（三輪敦子委員） 語感的には「安全で」はない方がよい。「あらゆる人にやさしいまち」というのは情緒的過ぎて、具体的なまちのイメージが見えてこない。また、枚方は京阪の真ん中に位置し、大阪だけでなく京都とのつながりも強いので、「大阪で」と限定しない方がよい。</p>
40	Ⅱ 基本構想（素案） 2. めざすまちの姿	<p>（本田委員） 修正案の「めざすまちの姿」は少しぼやけていると思う。「～大阪で住むんやったら、ひらかた～」という部分をメインにして、「住むんやったら、住み続けるなら ひらかた」などにしてもよいと思う。また、枚方を出た人から「帰ってきたい」という声をよく耳にするし、転入・転出のアンケート結果でも「仕事の都合」で枚方を出る人が多く、「帰りたいまち 枚方」という視点を盛り込むのもよいのではないか。</p>
41	Ⅱ 基本構想（素案） 2. めざすまちの姿 3. まちづくりの基本目標	<p>（三輪敦子委員） 少子高齢化の進展は、「産みたくても安心して産めない」というような諸事情が結果として表れているものと思うが、そのような中で、「枚方は子育て支援が充実している」という評判が広がれば、枚方市にとってすごく大きなメリットになる。もし、市レベルで合計特殊出生率が改善し、近隣市の中で枚方市の出生率が高いということになれば、そこが枚方市のセールスポイントにもなり、「住むんやったら、ひらかた」ということにもつながってくる。 そうなるためには、子育ての例のように、「選択と集中」の視点をもう少しわかりやすい形で基本目標に反映できればよいと思う。</p>

No.	分野	委員によるご意見
42	Ⅱ 基本構想（素案） 2. めざすまちの姿 3. まちづくりの基本目標	<p>（加藤副部長）</p> <p>「めざすまちの姿」としては、「住むんやったら、ひらかた 住み続けられるまち、ひらかた」という方が個人的にはよいと思う。</p> <p>少子高齢化の中では、行政の財政負担が大きくなり、現在の行政サービスを提供することが困難になる。そうした情勢の中で、住み続けられるということは、市民が安全で適切な行政サービスを受けられることが必要であり、そのためには行政はスリムにならなくてはいけないし、財政がしっかりしなければならない。財政がしっかりするためには、若い人たちが帰ってきて税金を納めるというロジックがあった方がよいと思う。</p> <p>そう考えると、今の「5つの基本目標」は総花的で、この書き方を「めざすまちの姿」からつながるような表現に変えることができれば、内容は同じでもより明確になると思う。住み続けるためにはどういう「選択と集中」をすればよいか。サービスを支えるためには、市民が参画して行政コストを下げないといけないし、年齢構成を捉える必要もある。そのためには、子どもを育てやすいといった環境の整備も必要になってくる。</p>
43	Ⅱ 基本構想（素案） 3. まちづくりの基本目標	<p>（新川部長）</p> <p>総花的な基本目標ではなくて、例えば「安心して子どもを産み、育てることができるまち」というような具体的な目標を掲げれば、そこには当然、子育てや出産、教育、福祉なども関わってくる。どういう選択をして、施策を展開していくかという観点から言えば、具体的にイメージしやすい基本目標を掲げることも一案である。</p>
44	Ⅱ 基本構想（素案） 3. まちづくりの基本目標	<p>（徳久委員）</p> <p>今の「5つの基本目標」は従来型の総花的なスタイルであり、行政は赤字の事業も含めて取り組まなければならない対象が多い。しかし、一方で確実に少子化は進行しており、財政が厳しくなれば自ずと行政スタイルの転換を迫られる。そういう点を総合計画のどこかで謳わなければ、選択と集中の視点など他の委員が指摘したことは書けない。</p> <p>市民が財政状況を理解して将来をイメージするのは難しいが、今後、行政として従来型ではないまちづくりを進めることを最初に示し、共有化を図った上で具体的なストーリーを作らないと、「5つの基本目標」が絞られる理由の説明にならないと思う。</p>
45	Ⅱ 基本構想（素案） 3. まちづくりの基本目標	<p>（三輪信哉委員）</p> <p>人口8万人の減少により、猛烈に財政負担が大きくなり、収入減・支出増になることは明らかであり、それに対して人口を増やすということだが、果たして人口を増やせるのか。例えば、大阪市内は、医療サービスが充実し、マンションが次々と建設されており、こうした状況では高齢者の都心回帰が起こり、人口8万人を呼び戻すことは難しいのではないかと。</p> <p>したがって、これまでの総合計画には書かれなかったような、現実路線に沿った将来の状況を示して、危機意識を持たせてもよいと思う。その上で何ができるか、だからこそ「選択と集中」が必要になるという論理構成が見えるような書き方をしてはどうか。</p> <p>また、税収の大幅増が見込めない中では市職員の激減もあり得る。そうなると、行政サービスの担い手が、例えば市民・市民団体などに分散していく時代がくると思う。</p>
46	Ⅱ 基本構想（素案） 3. まちづくりの基本目標	<p>（三輪敦子委員）</p> <p>危機意識を持たせることも大切だとは思うが、計画策定の際には、危機はチャンスであるという意識も必要で、建設的なビジョンがなければ、まちづくりは考えられないように思う。</p>

No.	分野	委員によるご意見
47	Ⅱ 基本構想（素案） 3. まちづくりの基本目標	<p>（徳久委員） 人口減少社会の中でこれからの行政を考えていく際に、「危機はチャンス」という意識はあってもよいと思う。例えば、「5つの基本目標」の中に、「社会問題をみんなで解決するまち」というものを入れてはどうか。そうすると、育児や独居高齢者に係る施策を進めるにあたり、民間が主体となって対策を講じられるように必要な規制緩和を行ったり、所管の再編を行ったりするといったような、特定の課題に対する取り組み方が書ける。総花的ではない目標をいくつか入れるのも一つのやり方である。</p>
48	Ⅱ 基本構想（素案） 3. まちづくりの基本目標	<p>（三輪敦子委員） 独居高齢者への対策は非常に重要で、これは孤独死の問題とも関連する。この問題を考えるとき、コミュニティの温かさが必要であると思うが、「健やかに、生きがいを持って暮らせるまちづくり」のところには、こうしたコミュニティの視点も入れてはどうか。</p> <p>（岡田委員） 基本目標の4つ目に「人々が集い」とあるが、この表現だと単純に集っているだけという感じがする。助け合いとか、温かい表現に変えられないものか。</p> <p>（新川部会長） もともと「人々が集い」という箇所は経済的な賑やかさが念頭にあったが、逆に、コミュニティ的な要素、例えば、人々の絆、結びつき、気持ちの通いあいといったような「人々の集い」もあるかもしれない。</p> <p>（加藤副部会長） 人々が支えあうという観点を「基本目標」に盛り込むのであれば、「安全で、利便性の高いまちづくり」が適しているように思う。例えば、「市民が支えあう、安全で～」のようにしてはどうか。</p> <p>（徳久委員） 人々が支え合うといったような温かいものが欲しいとあったが、この視点は大事なように思う。今の「5つの基本目標」は総花的で、それぞれ個別政策が念頭に置かれたものになっていると思うが、「人々がつながり、支えあうまち」のようなものであれば、社会福祉であれ、教育であれ、防災・防犯であれ、いろんな政策をブリッジする架橋型の目標になるので、こういうものを盛り込むのも1つの手法としてあると思う。</p>
49	Ⅱ 基本構想（素案） 3. まちづくりの基本目標	<p>（岡田委員） 「5つの基本目標」を「まちづくり」としているのは、能動的な表現にしていると思うが、全てが「まちづくり」で終わっているのはすっきりしない。</p>
50	Ⅱ 基本構想（素案） 3. まちづくりの基本目標（■安全で、利便性の高いまちづくり）	<p>（三輪敦子委員） 「安全で、利便性の高いまちづくり」とあるが、この表現はイメージがぼやけているように思う。これよりも、「まちづくりワークショップでの意見・提案」にある「安全に歩けるまち」や「災害に強いまち」などの方が具体的にイメージしやすい。また、基本目標はまちづくりの成果であるため、語尾としては「まちづくり」ではなく「まち」の方が適切だと思う。</p>
51	Ⅱ 基本構想（素案） 3. まちづくりの基本目標（■安全で、利便性の高いまちづくり）	<p>（三輪信哉委員） 基本目標「安全で、利便性の高いまちづくり」について、「まちづくりワークショップでの意見・提案」の中に「安全に歩けるまち」とあるが、これは非常に大事だと思う。若いお母さんが何の心配もなくバギーを押して歩ける歩道や、自転車が2列に並んでも安心して走れる道路など、人間的なまちのあり方に変わってほしいと思う。「安全で、快適に歩ける」など歩行者・自転車重視のまちづくりというのは、エネルギー的な側面からも望ましいと思う。</p>

No.	分野	委員によるご意見
52	Ⅱ基本構想(素案) 3.まちづくりの基本目標(■健やかに、生きがいを持って暮らせるまちづくり)	(三輪信哉委員) 基本目標「健やかに、生きがいを持って暮らせるまちづくり」について、現在の65歳以上の方で運動する人が増えているようだ。最後まで健康であることを目指す高齢者が増えていることは素晴らしいことで、基本目標の中で、高齢者が生き生きと最後まで生活の質を維持できるような社会の枠組みが見える表現にできればよい。
53	Ⅱ基本構想(素案) 3.まちづくりの基本目標(■子どもが光り輝き、文化が薫るまちづくり)	(三輪信哉委員) 基本目標「子どもが光り輝き、文化が薫るまちづくり」について、子どもに力を入れるのはよいと思うが、高齢者も光り輝かなくてはいけない。
54	Ⅱ基本構想(素案) 3.まちづくりの基本目標(■人々が集い、活力あふれるまちづくり)	(加藤副部長) 基本方針の「人々が集い、活力あふれるまちづくり」については、「人々が集い」という表現が中心市街地の活性化を想起させるが、この基本目標は、枚方の地域資源を活かして、それを活力につなげていくという内容だと思うので、「地域の資源を活かし、活力があふれる」のような表現に変えて、農業、商業、あるいは里山など、さまざまなネットワーク型のビジネスにもつながるような方向性に重点を置いた方がよい。また、枚方の地域資源をもっと掘り起こして、魅力として情報発信していけるような努力をした方がよいと思う。
55	Ⅱ基本構想(素案) 3.まちづくりの基本目標(■人々が集い、活力あふれるまちづくり)	(三輪敦子委員) 枚方市に来ることで自分自身の活力が引き出されるようなイメージでいえば、中心市街地の活性化は大切である。 また、現在の小学生が成人になる頃には、就労の形態や仕事内容はどんどん変わっていく。農業をやりながら、他のことにも取り組む「半農半X(エックス)」も増えてくる中では、枚方市はそのようなライフスタイルに適した土地ではないか。 新しい産業形態も含めて、市外から人を惹きつけるようなまちということをアピールする記述も盛り込んでどうか。
56	Ⅱ基本構想(素案) 3.まちづくりの基本目標(■人々が集い、活力あふれるまちづくり)	(新川部長) 単に枚方市の資源を活かすということだけではなく、積極的にその魅力を開発したり、あるいは新しく組み替えたりしながら、地域の魅力を増やしていく。それは、中心市街地だけに限らず、里山や農業地帯、住宅街などでもやっていく。人そのものも重要な資源で、そういった可能性を引き出していけば、活力があふれてくるかもしれない。
57	Ⅱ基本構想(素案) 3.まちづくりの基本目標(■自然と共生し、美しい環境を守るまちづくり)	(三輪信哉委員) 基本目標「自然と共生し、美しい環境を守るまちづくり」について、「東部地域などの豊かな緑のほか、公園や河川といった身近な自然を守ることで」とあるが、「汚れないように守る」「減らないように守る」という印象を受ける。このような守りの姿勢よりも、身近な緑を増やしていくという姿勢も大事のように思う。
58	Ⅱ基本構想(素案) 3.まちづくりの基本目標(■自然と共生し、美しい環境を守るまちづくり)	(宮原委員) 枚方市内には「にほんの里100選」に選ばれた穂谷があり、特色のある土地だと思う。行政やNPO、ボランティアなども活発に活動し、里山の保全に努めていることから、基本目標では、「美しい環境を守り、築く」というような視点も盛り込んでどうか。

No.	分野	委員によるご意見
59	Ⅱ基本構想(素案) 3.まちづくりの基本目標(■自然と共生し、美しい環境を守るまちづくり)	(徳久委員) 枚方市では、プランターなどに花を入れて国道沿いなどの景観を美しくするような「花いっぱい運動」などは実施しているのか。 (宮原委員) 枚方市では、プランターに花を入れたり、街路樹を美しく維持・管理するボランティアを募集する「アダプト制度」を導入している。行政が花の苗を配布するなどしており、多くの市民が関わっている。
60	素案全般	(本田委員) 基本構想はこのまま冊子になるようなイメージか。「Ⅱ.基本構想」にある「めざすまちの姿」や「5つの基本目標」がわかりやすく、枚方市が言いたいところでもあるため、最初にこの部分を打ち出してから、なぜそうなのかということの説明の方がわかりやすいように思う。 (新川部会長) 市の報告書などでは、そもそもなぜやるのかという部分が最初にきて、その中身が次にくるのが一般的である。しかし、一番訴えたい部分をどう表現するかは工夫の余地があるかもしれない。計画書としては現行のスタイルがベースになると思うが、PR用のパンフレットなどでは「めざすまちの姿」などが最初に掲載されるイメージかもしれない。 【ご質問に対する回答】(事務局) 前回の総合計画を策定した際も本編とは別に「概要版」を作成している。今後、計画をまとめていく中で示していく。
61	素案全般	(三輪敦子委員) 少子高齢化の中でも税収が減らないということは想定できないのか。また、人口減少の推計は信頼できるものなのか。 (新川部会長) 税収としては15～64歳にあたる生産年齢人口の納税額が大きい割合を占めるため、その層の構成比を厚みのあるまま維持できればよいが、今後、少子高齢化や人口減少が進む中では、働かない、納税しない層が拡大してくる。もちろん、富裕層や産業都市的な税収、大規模な公共施設からの税収があればよいが、日本の産業構造から考えて、枚方市の産業が飛躍的に発展して税収減を防ぐところまでいくのは非常に難しいかもしれない。
62	素案全般	(三輪信哉委員) 行政が何でもする時代から、地域のコミュニケーション、コミュニティの活性化によって、税収減による行政サービスの低下を補っていくということは豊かなことだと言えるのではないかと。 東日本大震災前後の意識調査では、物的には困窮した人であっても、人のために何かできた人は幸福度がそれほど落ちていないことがわかった。人は困っている人に手を伸ばすことで幸福を感じられる。行政サービスが低下しても、みんなが支え合えるような施策が盛り込まれることが必要である。
63	素案全般	(小原委員) 何事も挨拶が基本。挨拶についてどう取り組んでいくかを考えてみるとよいのではないかと。
64	素案全般	(北川委員) まちづくりワークショップでは、どの回でも共通してコミュニティやコミュニケーションの重要性が指摘されていた。基本目標の中にも、全てを網羅する形でコミュニティやコミュニケーションに関する内容を入れていくのは必要であると思う。 また、ワークショップに参加して思ったのは、集まっている市民の意識は高いということ。したがって、行政やまちづくりに関心のない人の意見を吸い上げられたかどうかは疑問である。

<本日ご欠席の委員からのご意見>

No.	分野	委員によるご意見
65	Ⅱ 基本構想 1. めざすまちの姿	(加藤委員) 「めざすまちの姿」の「あらゆる人に」は、「1人ひとりが」という表記にすべきではないか。
66	Ⅱ 基本構想 4. 基本構想を実現するために	(加藤委員) 基本構想を実現するための情報発信の取り組みについては、イベント情報の発信というイメージにとどまらず、市の魅力を広く発信していくことが必要だと思う。
67	Ⅱ 基本構想 1. めざすまちの姿 2. 基本構想の実現主体 3. まちづくりの基本目標	(角野委員) 「めざすまちの姿」は抽象的のようだが、わかりやすく良いと思う。また、「基本構想の実現主体」の図についてもわかりやすい。ただ、5つの基本目標については、もう少しメッセージ性が求められると思う。
68	Ⅱ 基本構想 1. めざすまちの姿	(三輪信哉委員) 今後、人口が減少していくことを十分に自覚すべきであり、それは税収の減少と職員の削減に直結し、行政は基礎的なサービスと重点をおくべきサービスに特化せざるを得なくなる。このような状況においては、将来を悲観的に考えるのではなく、むしろ市民が相互に支えあい、サービスを提供しあっていくような市民社会の形成に向けた準備をしておく必要がある。このような視点から、「めざすまちの姿」として、「人口減少社会においても果敢に挑戦し、持続的に発展し、輝くひとびとのすむまち枚方」というように、はっきりと取り組むべき点を打ち出すことが大事であり、それは日本全国においても先進的な都市としてアピールできるものだと思う。
69	Ⅱ 基本構想 2. 基本構想の実現主体	(三輪信哉委員) 基本構想の実現主体の図では、まちづくりのバールンに4つの主体がぶら下がっているようにも受け取れるので、支えて行くといったイメージがよいと思う。